



第15回牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール 2015

“気付き”の記録

「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」は、牛乳パックを素材とした工作の機会を提供することで、より多くの子どもたちに造形活動に楽しく取り組んでもらいたいと思っています。また、工作を通じて環境への思いやりを育みたいと、紙の循環や森林資源、地域や地球にやさしい行動など、気付いたこと、思ったことを感想文に書いてもらっています。

この記録は、2015年の佳作以上に入賞した30名の子ども達の感想文集です。



編集・発行
協 賛

「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」実行委員会
全国牛乳容器環境協議会、一般社団法人日本乳業協会

最優秀賞

『ミルクフェニックス』

高田 悠里さん 習志野市立実籾小学校 5年

牛乳紙パックは、トイレトーパーや、ティッシュペーパー、はがきやうちわ、紙バッグなど、姿をかえてよみがえりませぬ。前に本で読んだことがある、不死鳥（フェニックス）のようだと思ひます。私も、かざりや楽器、おもちゃなど、牛乳紙パックの形を変えて色々な工作を楽しんできましたが、今年、牛乳パックのつばさではばたいしている大きなフェニックスを作りたいと思ひました。

手のりのセキセイインコを飼っているので、羽や足の感じなどよく観察しました。大きなフェニックスにするために色々工夫もしました。牛乳パックだけでは強さが足りないので、骨組みにはステンレスの部品を使ひました。次に、牛乳パックは水をはじくので、表面のシートをはがしてから、絵の具で色を塗りました。全部で238枚の羽を作ったので大変でしたが、少し毛羽立った感じも鳥らしくなりました。口ばしは牛乳パックの角を利用したうまくできました。

フェニックスは空想上の鳥ですが、牛乳パックが変身したのものには「牛乳パック再利用マーク」が付いています。私はこれをフェニックスのマークだと思ひ、これからもこのマークを探して利用していきたくと思ひます。

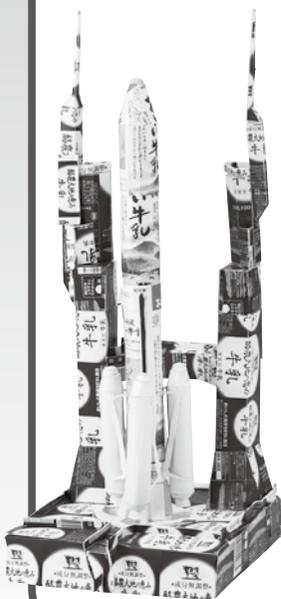


優秀賞

『ぼくの夢をのせて』

秦 幸生さん
和歌山市立三田小学校 5年

ぼくの夢は、自分で作ったロケットに乗って、宇宙に行くことです。去年の秋に種子島から打ち上げられたH2Aロケットそっくりに作りたくと思ひたけれど、50メートル以上もあるものを作れるわけがない…そんなときに、スーパーで小さい牛乳パックが目にとまり、「大きい牛乳パックと同じ形だ!!ロケットも、小さくすればいいんだ」と気がついた。家に帰ってJAXAのホームページを調べたら、それぞれのパーツの大きさがわかったので、この数字から、僕のロケットの出来上がりの大きさを決めた。ロケットの各部分の構造や組み合わせも、のっている写真をよく見て、どうしたらこの形が作れるか、身の回りにあるものを参考にして考えた。今は見て楽しむことしかできませんが、このロケットを飛ばす動力について勉強して、いつかきつと飛ばしたいと思ひています。



最近僕のように宇宙に行きたいと考える人がたくさんいて、「宇宙旅行」の話も出てきましたが、宇宙が開発されるのに伴って「宇宙ゴミ」が増え、現在は4,500トン以上といわれています。これからは、宇宙のゴミのリサイクルについても考えていかなくてはいいないと思ひました。

優秀賞

『カメレオン』

東原 寛人さん
吹田市立古江台小学校 3年

カメレオンを、立体的で本物みたいにしたいと思ひました。そこで工夫したところは、いろいろな色の牛にゅうパックを細く切り、本物みたいにカラフルにしました。

むずかしかったところは、ベロが長いところと、しっぽがクルッとまるいのと、せ中が丸いところでした。だから牛にゅうパックをいっぱいつかいました。また何か牛にゅうパックで作ってみたいと思ひました。



全国小中学校環境教育研究会賞

『麦わらぼうし』

上田 紗葵さん
横浜市立三ツ境小学校 4年

暑い夏を乗り切るために麦わらぼうしを作りました。風通しを良くするために牛にゅうパックを3ミリ位のはばに切って、1本ずつねじりました。色も赤い色にそろえてかわいい感じにしました。ねじった牛にゅうパックを1本1本つなげて、丸くぼうしの形にするのがむずかしく、ゆがんだり牛にゅうパックが重なってしまい何回もほどいてつなげて行く作業は時間もかかり、大変でした。私は、子供会では品回収の手伝いをします。その時に使用済みの牛にゅうパックがたくさんです。私がぼうしを作ったように、色いろな物を作れば、ゴミの量もへって行くと思います。これからも、家で役に立つ物作りをしていきたいと思っています。



全国牛乳パックの再利用を考える連絡会賞

『弟のカッコイランドセル』

田尻 絢楓さん
加古川市立加古川小学校 2年

らい年小学1年生になる弟のためにカッコイランドセルを作りました。牛乳パックは、きるのがむずかしかったです。じょうぶにするために外がわをあみめじょうにしました。

弟は、これをせおってよここんでいました。わたしは、作ってよかったな一と思いました。お父さんは「じょうぶにできたね」と言ってくれてうれしかったです。弟が家のまわりをじてん車で走っていたので学校へ行ってるようにみえました。



全国牛乳容器環境協議会賞

『こだいりゅう』

相原 弘治さん
横浜市立能見台小学校 4年

牛乳パックで、りゅうを作りました。くふうしたところはうろこです。うろこを1まいずつはりました。ゴミをすてないで、リサイクルをして、いろいろな物を作ってみたいと思いました。



日本乳業協会賞

『牛乳パックがへんしんしたよ』

日野 杏美さん
高山市立江名子小学校 2年

のるとゆらゆらするようにくふうしました。おとうとがのってあそんでも、こわれないようにじょうぶにつくりたいと思いました。じょうぶにするために、牛にゅうパックをひらいてまるめるのがむずかしかったです。1リットルの牛にゅうパックを120本使いました。

この作品をつくるときに、リサイクルについておしえてもらいました。ぶんべつをすることがたいせつだと思いました。ぶんべつすることでゴミもへらせると思いました。わたしはあまりぶんべつができていないので、これからはぶんべつをしてごみをへらせるようにしたいです。



『羽子板 - 男 羽子板 - 女』

高村百合子さん 4年、謙司郎さん 1年 御殿場市立御殿場小学校
遊べるように、ふたつ作りました。
色をあわせるのがむずかしかった。
家では、リサイクルや、エコバッグをもってお店に行きます。



『牛乳パックかるた』

伊達こころさん 広島市立矢野小学校 1年
つかいやすいようにあつみをそろえました。にわでそだてた
ハーブやはなをかわかして、かみすきのときにまぜました。
いいにおいでした。なつやすみに、いえにきたいとこ、とも
だち、そしてかぞくであそびました。えがうまくかけずに、さ
がしにくかったけど、おもしろかったです。



『ぎゅうにゅうパックのうさぎ』

稲垣 優衣さん さいたま市立浦和別所小学校 1年
ぎゅうにゅうパックのうらをつかって、からだをしるく、みみとめはおもてをつ
かってあかくなるようにくふうしました。かんせいしたうさぎはじぶんのつくえ
にかざりました。



『ギンピカのバイク』

対馬 琢斗さん さとえ学園小学校 2年
牛にゅうパックでタイヤがうごくバイクが作れるかチャレンジしました。四角い牛にゆ
うパックでどうやって丸いタイヤをつくるのか。本もののバイクを見に行くと、三角を
あつめると丸に近づくことがわかりました。ハンドルがざせきとタイヤをつなげるや
り方も本もののバイクを見て、アルミのついている紙パックでパイプを作ってささえる
ことにしました。これでタイヤもまわります。
アルミのついた紙パックは、じょうぶだけれど、リサイクルに出せないことがあると聞
きました。もっとリサイクルがしやすく、じょうぶな紙パックを作るけんきゅうがす
すめばいいなと思いました。これからぼくは、ただリサイクルに出すだけでなく、何
に生まれかわるのかまでかん心をもちたいと思いました。



『きょうかしょいれ』

井藤 大翔さん 水戸市立城東小学校 2年
わすれものをしないように、きょうかごのきょうかしょいれをつくりました。
がく年がかわってきょうかしょのあつさがかわったら、一つとりはずしてつくり
なおせるように、くふうしました。エコにつながると思います。



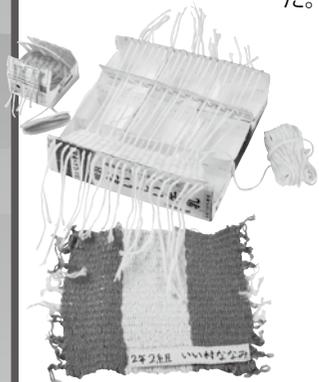
『水にうける大きなふね』

中村 心晴さん 茅ヶ崎市立浜之郷小学校 2年
ぎゅうにゅうパックはぎゅうにゅうがはいっているから水にぬれてもつよいとお
もって、ぎゅうにゅうパックをつなぎあわせて大きなおりがみをつくってふねを
おりました。おりがみでおるのはかんたんだったけど、ぎゅうにゅうパックは
かたいからむずかしかったです。



『ホームベース』

山越 遼馬さん 熊谷市立大幡小学校 2年
ほんもののホームベースとおなじ形になるように、つくりました。ぎゅうにゅうパックは、あらって、リサイクルに出しています。



『おりき』

飯村 菜々美さん 羽島市立竹鼻小学校 2年
本にのっていたおりきをつくったら、すごく小さいもの(5cm×5cm)しかできなかったの、パックを9コつかってオリジナルの大きいサイズのおりきをつくりました。カッターでタテ糸をとおすみぞをつくるとき、手を切らないように気をつけました。牛乳パックをホチキスでつなげるのもむずかしかったです。ほんとうにつかえるなべしきができてよかったです。紙すきたいけんへ行って、木のだいじさを学んできました。紙パックも木からできているので、だいにしたいと思いました。

『ここちゃんのおうち』

須田 佑奈さん 佐倉市立西志津小学校 3年
おじいちゃん、おばあちゃんの家にいる犬のここちゃんのおうちを作りました。はらはじょうぶになるように、牛にゅうパックでコの字形を作って二つ組み合わせました。かべと屋根をテープでつけるところ、家を組み立てるのもむずかしかったです。エコについては今までにも考えていなかったから、すぐできるエコとして、水の出しすぎやおふろでのシャワーの出しっぱなしに気をつけたいと思います。



『うち水セット』

金田 一侑樹さん 川崎市立真福寺小学校 3年
牛にゅうパックは水に強くてじょうぶなので、バケツとひしゃくを作りました。ひしゃくはパック1コでつくれたのですが、バケツは、牛にゅうパックをはり合わせると間から水がもれてしまっ、何回もしっぱいしました。牛にゅうパックを二じょうにして、間にビニールぶくろをはさみ、また牛乳パックをかさねてはったら、水がもれませんでした。うれしかったです。

『かも水族館のクラゲモビール』

星野 佑汰さん 新潟大学教育学部附属長岡小学校 3年
ぼうを作ること、バランスをとることがむずかしかったです。朝起きるとモビールが見えるとキレイでよいのでかざっておきます。ほかにも工作をして、遊んでいます。

『キラキラ光るかんらん車』

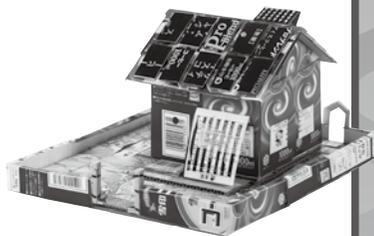
酒井 悠輔さん 富山市立萩浦小学校 4年
モーターを使って自動で動くかんらん車を作りました。ゴンドラがゆっくりいいスピードで動くように、お父さんに手伝ってもらってモーターの回転をおそくしました。上には紙コップと豆電球でライトをつけました。紙コップの中にアルミホイルをはって、光をはんしゃさせました。へやを暗くして動かすと、きれいです。



『ぼくの考える夏の家』

岸 健太さん 佐倉市立西志津小学校 4年

ぼくの考えた夏の家は、エコを意識して①庭は一面しばふ、②南の窓は日差しをふせぐよしずばり、③屋根に太陽光温水器を設置、④南面屋根にソーラーパネルを設置しています。しばふとよしずはお茶と野菜ジュースのパック、温水器とソーラーパネルはアイスコーヒーのパック、家とさくはコーヒー牛乳のパック、玄関・勝手口・土間はバーコードの部分を使いました。



『かげを楽しむ牛にゅうパックのかべかけ』

長村 磨侑さん 岐阜市立岐阜小学校 4年

家のリビングに西日の当たるかべがあり、お母さんが、「かべにかげをうつして楽しめる何かあるといいね」と言ったので、牛にゅうパックで作ってみようと思いました。牛乳パックをそのまま横に切ると、四角い輪ができました。これを折ったりしてみたら魚の形ができました。他にもと、夏をテーマに考えているうちに、スイカ、ぶどう、トンボ、クラゲ、ソフトクリーム…たくさんできました。これをグルーガンとホッチキスでとめて、完成させました。西日は角度が変わってあたらなくなっていたのは残念でしたが、部屋のかべから少しはなしてつるし、明かりを付けると、かげがきれい、お母さんもよろこんでくれました。

『「日本の城」の作成』

追川 恵理さん つくば市立栗原小学校 4年

二年生のころから歴史に興味を持ち始め、中でも日本の城に惹かれました。この夏休みに初めて鶴ヶ城に登り、「日本の城」を作ろうと思いました。牛乳パックは防水されているので、色塗りや貼り付けに苦心しました。しゃちほこは、印刷が黄色いパックを使うことにしました。破風をつけたらこうかに見えました。



『ペダルなし自転車』

富永 鈴さん 貝塚市立中央小学校 4年

一番大変だったのは、車輪です。牛乳パックを開いて、えん筆で円を書き、それを何枚も重ね合わせました、がんばったので、自転車が立ちました。楽しかったのは、作った部品を組み立てる時でした。だんだんできていくって感じがうれしかったです。人形を乗せて遊んでみたいと思いました。



『スマートフォン・タブレットパソコンスタンド』

児玉 大和さん 横浜市立川上北小学校 4年

いつも牛乳パックはリサイクルに出しているが、とても丈夫なので何かに使えないかと家族で考えて、スマートフォン・タブレットパソコンスタンドを作ることにした。使ってみたら、大きくて重いタブレットパソコンを置いて大丈夫で、牛乳パックの強度に驚いた。スタンドに置いたまま充電できるように充電器のコードを通す穴を開け、持ち手もつけたので便利だ。みんなにも作ってもらえたらうれしいです。



『室外機カバー』

久留 百加さん 横浜市立井土ヶ谷小学校 5年

牛乳パックから葉っぱと花を切り抜き、タコ糸でつなげました。牛乳パックで何かを作るのは、環境にいいことだと思いました。家ではグリーンカーテンを作って、夏をエコにすずしくすごしました。



『亀船』

中島 大翔さん 千葉市立千城小学校 5年

牛乳パックは水に強いので、船を作りたいと思いました。ぼくが飲んでいる牛乳パックは緑色だったので、亀と船を合体させることにしました。亀船を動かすのに輪ゴムを使いましたが、こうかんしやすい工夫をしました。亀船は重たいので、プロペラは二つ付けました。難しかったのは、こちらの丸くボコボコした感じをだすことです。牛乳パックを細く切って、ボンドをつけながらあんだので、これだけで三週間くらいかかりました。



『ホワイトチーター』

加藤 和夏子さん 北本市立西小学校 5年

牛乳パックを切ったり、まるめたりして作りました。ひょうらしく見えるように、形を工夫しました。目やテンテンもようをつけるのがむずかしかった。チーターがうまくてきたので、これからもいろんな物を作りたい。



『魚の家族のマトリョーシカ』

島山 知子さん さいたま市立道祖土小学校 5年

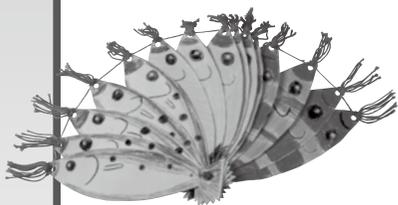
大きさのちがう紙パックをみていたら、マトリョーシカを思いつきました。魚の家族のマトリョーシカです。一番大変だったのはうろこです。特に大きな魚のが大変でした。小さな魚は、マスキングテープを使って、きれいな色どりになるように工夫しました。



『みんな幸せおさかなセンス』

林 幸太さん 横浜市立井土ヶ谷小学校 5年

魚の口にエサのミミズをつけるデザインにして、見た目を楽しくした。魚の形をそろえて、閉じた時に一匹の魚に見えるようにしようと思った。でも、同じ型紙で書いて切ったのに全然形が合わなくて、何度も作り直した。画用紙でせんすを作っても、厚さがうすいし、大きいのを作るとへにやっとしてしまうけど、牛乳パックはじょうぶだなと思った。もっといろいろな物が作れそう。



『牛乳パックアゲハ』

中野 響子さん 仙台市立八幡小学校 6年

今年は何をつくらうかな、と思いながら外を見ていたら、アゲハ蝶がとんでいたの、アゲハ蝶を作ろうと思いました。黄色い模様のところをカッターで切り抜くのが難しく、切りすぎたりたくさん失敗しました。羽が完成して、胴体をどのように作るか迷っていたとき、妹がボンドがかかわくまでダブルクリックを使っているのが目にとまり、黒い部分を胴体にして持つ部分を土台にさしこめばいいんだと思いました。アゲハ蝶をかざっていると、雨の日のいやな気持ちも少しだけ軽くなります。



